

## 仙台教区 復興支援活動ニュースレター

# 4→6・45通信

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗  
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12  
カトリック仙台司教区事務局  
TEL 022-222-7371 FAX 022-222-7378  
義援金振替口座：02260-9-2305  
名義：カトリック仙台司教区本部事務局

4→6・45通信4号は、福島・会津若松教会の自主避難者支援の活動報告、次いで、宮城・八木山教会の巨理旧館仮設の皆さまへの支援活動。最後に福島・松木町教会の浪江町の人々が入居なさっている宮代仮設の方々と体験した「心の打ち上げ花火」をご紹介します。

今度は皆さんの教会の番です。皆さまの教会でなさっている活動のご紹介をお待ちしております。

## 県内自主避難者を支援して1年

会津若松教会

品川美枝

自主避難者支援1年目を迎えた今年の6月、「第7回福島ブロック会議」が会津若松教会で行われました。

会津若松はご存じのように、大熊町から役場・学校などとともに町民が移り住んでいるところです。その人たちに対する支援は、国・県・東電が力を入れていますが、県内自主避難の人たちの存在は、1年間ほとんど知られずにいました。

県外自主避難者は、家賃補助や電化製品6点が支給されたにもかかわらず、県内自主避難者は何一つ支給されていなかったのです。そんな人たち3人に、CTVC（カトリック東京ボランティアセンター）からの情報をつてにしてお目にかかり、話を聞きました。そこで今、さしあたり必要な物をリストアップしてもらうことにしました。「子どもの衣類が必要なので市役所に行っても、全然動いてくれなかった」という声に、「それでは社協に行ってみましょう」ということになり、自主避難者の存在や実情を知ってもらうことになりました。

自主避難者自身が仲間に呼びかけるチラシを作って、スーパーなどに貼らせてもらい、社協が青少年ホールを借りて、最初の集会が開かれました。心のケアセンター、心の森、スクールソーシャルワーカー、教会、そして自主避難者が集まり、以後、月1回の「おしゃべり会」をもつようになっています。

被災から1年も経つと、体育館にあった物資はもちろん、社協には何も残っておらず、リストアップした品を会津若松教会に掲示したり、つてをたよりに、喜多方教会の方と走り回りました。その結果、自転車や子どもの衣類などを寄付していただくことができました。日頃からボランティアをしてきた人は、すぐに行動に移してくださいました。

信徒会館の2階の1部屋を、物資置き場に提供してもらいましたが、ちょうどそのとき、聖公会幼稚園が震災で建て替えのため、カトリック教会の信徒会館1階に引っ越していらっしゃっていました。そこで、自主避難者の方の事務所として教会敷地内にあるスカウトハウスも使わせていただくことになり、自由に出入りができるように、鍵をお渡ししました。



第7回福島ブロック会議の様子



会津若松教会

会津若松教会の社会福祉部はそれまで休部状態でしたが、この活動があったためでしょうか、20人の部員を数えるようになりました。これと並行して、自主避難者のメンバーも増え、彼らが自分たちで、家賃補助や住民票を移動しなくても、公立小・中学校へ入れるよう陳情を市や国にしました。こうして、報道機関も動き出してきました。

CTVCも2ヶ月に1度、会津若松教会で、自主避難者と福祉部員の話聞いて支援を考え、東京でも2回自主避難者が話す機会を与えてもらいました。これによって、東京教区からの支援が増大しました。二重

生活で経済的に苦しくても子どものために、中通りから自主避難している人たちは、おおいに助かったのです。

その後、住民票がなくても公立学校に入学できるようになり、家賃補助も45世帯の半数がもらえるようになりました。同じ自主避難者を支援している会津若松ボランティア連絡協議会とともに、子どものスクール体操着を、義援金の中から購入することができました。今後は、母親のストレスを緩和できるよう「おしゃべり会」で子どもたちと遊びながら見守っていこうと考えています。

## 八木山オリーブの会ボランティア活動報告 主に招かれた巨理への道

八木山教会オリーブの会 片岡保彦

私たちは八木山教会ボランティアグループ「八木山オリーブの会」を結成し、2011年4月より活動を開始しました。今日までの歩みを振り返り、その経過をご報告いたします。

当教会は、仙台中央地区で最も小規模で、最も南に位置しています。私たち有志で相談を重ね、教区の基本計画の一つ仙台教区（4→6・45）計画を念頭に、巨理地区の被災地ボランティアを県南4教会の協力を得て、推進することといたしました。

巨理町の「旧館仮設住宅」で、神様が素晴らしい出会いを与えてくださいました。きっかけは、教会婦人会の方々の積極的な行動にありました。巨理荒浜出身のSさんと、リーダー格のTさんのお二人が手掛かりを求め巨理を訪問、旧館仮設住宅でSさんの小学校時代のお友達が仮設住まいされていることをつきとめ、逢うことが出来ました。これがご縁となり、昨年2月29日、生け花とお茶の会を開催。集まったご婦人たちは、活発で根っから明るい性格、お友達になるには時間がかかりませんでした。

継続が心配された集会のテーマは、参加者の意外な発言で決まりました。「先生の着ている服は動きやすそうでオシャレだね、私もそれを着てみたい。」それはTさんが着物地から自分で洋服にリメイクしたものでした。そこから、『T先生監修、古着物から洋服への再生』がメインテーマとなりました。古着物の提供を仙台地区の婦人会に呼びかけたところ、予想以上の提供があり、女性会員たちは、デザインの型紙の作成、お茶、お菓子の準備と大忙し、3月14日の会合の運営に皆さん自信を持って行動しておりました。

会は予想以上に盛況、好評です。全国からのご厚意で、着物が続々と到着し、現在もそのご厚意が続いています。全国の信徒の皆様のご厚意に心から感謝申し上げます。今回まで、会は月2回のペースで傾聴と共に延べ34回順調に継続しております。

聖ウルスラ学院専門学校の同窓会の方々が着物リメイクに協力くださり、昨年10月より仮設の皆さんが自信を持って完成させた製品を、フリーマーケットで販売しています。皆さんの自立心の一助となるよう行動し、会運営の資金の一部となるよう頑張っております。

復興計画、特に亘理地区の復興住宅建設は計画に対し大幅に遅れ入居出来るのは2年近くかかるといわれています。被災者の方々はこれからが心の復興ができるか難しく大変な時期に入ると思います。仮設訪問のボランティアの人たちは大幅に減少している様子です。オリーブの会は訪問グループとして数少ないグループになった様です。仮設の方々との交流の中での傾聴活動も、一年半と月日を重ね真剣な悩み事、心配事を聞かされるようになりました。これも継続の力ゆえだと思います。お話を聴き、少しでも心の負担が軽くなればと、寄り添う姿勢で接する様、皆で心がけております。

私たちは月2回のボランティアの当日、まず朝8時教会に集合、会のよりよい奉仕を神に祈念し、出発します。終了後皆で被災地食堂に行き、昼食をとり、帰途教会に集まり、分かち合いを行っております。

会発足以来、亘理訪問はこれまで天候に恵まれ、悪天候は一度もありませんでした。また亘理の人々との巡り合い、継続可能となったプロジェクト、すべて順調でした。八木山教会の守護の聖人は聖霊です。聖霊に守られた日々を感じた1年半でした。私たちは友人たちが仮設住宅を出る日まで、友人としてまた隣人としての応援を続けたいと考えております。

### 《これまでの主な催し》

#### ○お花見会 2回開催 (2012・2013)

2012年お花見会：カトリック仙台司教区・カリタスジャパンニュースレター第25号掲載

2013年お花見会：仙台教区復興支援活動ニュースレター 4・6→45 通信第1号掲載

※2回にわたるお花見の費用は、ウルスラ修道会・田園調布教会・千葉鴨川教会・五井教会、多くの信徒の皆様のご寄付で実施することができました。心からお礼申し上げます。

#### ○男性たちの温泉旅行

被災者男性陣と傾聴活動中、リーダー格の男性から、温泉広告チラシを見せられました。内容は、遠刈田温泉一泊二食・送迎バス付・5名以上・費用6,650円。仮設の風呂は狭く、リラックス出来ないから、手足を伸ばして湯につかりたいね。一緒に行ってくれないか？と誘われ、一緒に行くことになりました。

2012年6月22日、総勢8名、費用は割り勘でした。温泉では、「震災以来、初めての温泉、カラダと心の疲れが取れたね」「お酒も入りカラオケ合戦も楽しく本音の会話が出来たね」「久しぶりに命の洗濯が出来ました」と会話が弾みました。

「ところでオリーブの会はどんな団体？」との問いかけに、カトリックのことは特に話さず、カトリック八木山教会の有志の集まりでボランティア活動をしていますと、ごく自然に自己紹介ができました。好意的に受け入れられたようです。

○ファッションショー:カトリック仙台司教区・カリタスジャパンニュースレター第33号掲載。

○年越しそばをプレゼント:カトリック仙台司教区・カリタスジャパンニュースレター第35号掲載。



## 花火大会 “福島は今日も雨だった”

松木町教会 鈴木キミ子

### 花火大会当日

昨年につき、ふくしまの復興花火大会に、宮代仮設の方々の希望により、今年も信夫ヶ丘競技場で楽しむことにした。7月27日(土)当日は、雨が降ったり止んだりの何とも怪しげな空だった。東京教会管区からの多くのボランティアさんと地元の私たちが集会所に到着した時には、仮設の皆さんはすでに集合していた。決行合図の花火が上がったものの、雨が降ってきた。

相談の結果、予定の時刻に出発したが、行く途中、雨は本降りになり、順延の情報が入りUターンした。でも、明日は花火が見られるという思いがまだあった。集会所で弁当を食べ始めたが、沈みがち。そこで、東北の方言遊びをはじめ、少しずつ明るく声を出しはじめ、カラオケを始めると、次から次へと歌いはじめ、会場はまるでカラオケの仕掛け花火のように明るくなった。CTVC 漆原さんの前川清さんのものまね「福島(長崎)は今日も雨だった」は最高に受け、皆を楽しませてくれた。



### 花火大会順延日

28日(日)、松木町教会の主日のミサに、東京教会管区のボランティアさんたちと共にあずかり、青空も見えてきた。張りきって皆で花火大会の弁当づくりをしていたが、ビックリニュースが舞い込んできた。“花火大会中止!”、“え〜”、“じえ じえ じえ”。理由は、花火玉が水没して打上不能になったからだ。花火玉が濡れては、ただの花玉。

気持ちを切り替え、集会所でカリタスの「心の復興花火」を上げようと考えた。進行、アイディアを東京教会管区の方にお願ひし、お任せした。

まもなくアイディアが決まり、各々のグループで出し物の練習、リハーサルをした。笑顔、笑顔、ボランティアさん同士の熱いふれあいと交流になった。中止のおかげで、あのように余裕の中でのあったかな雰囲気



の交流が出来たのは初めてだった。集会所では、いよいよ「心の復興花火」の開幕となった。宮代仮設の方々も交え、韓国の「アリラン」、手話を交えた歌、ゴスペル、「花は咲く」の大合唱、インドネシアの話などなど、皆を楽しませてくれた。即席だったが、名芸人揃いだった。続けてカラオケ大会に入り、仮設の男性群は昨日に続き、大スター揃い。カラオケの民謡もあり踊りも入り、また2日目もCTVC 漆

原さんによる美川憲一さんのものまねをするコロツケさんのものまねに大爆笑! 中にはじっくりと話し込んでいた方もあり、いずれにしても仮設の方々の今の不安な気持ちをぶつけ、発散し、楽しく過ごせたひとときになったと思う。帰りに、おばあちゃんたちが言っていた。「きれいな花火見にいがんがったけど、花火より楽しかった〜。よがったよ!」と。「福島は今日も雨だった」が「心の復興花火大会」になれたような二日間だった。感謝!